

平成 25 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	環境デザインⅡ	担当教員	青木哲		
学年学科	5年 建築学科		後期	選択	1単位(学修)
学習・教育目標	(D-3 環境・創生系) 100%		JABEE 基準 1 (1) : (d)		
授業の目標と期待される効果： これまでの環境工学・設備工学の講義において学修した換気・熱・湿気・光・色彩などの分野の基本理論を応用し、実際の建築物での室内環境問題やその解決手法を学ぶことを目的とする。 ①室内環境と健康問題についての理解 ②断熱気密・換気・防湿についての理解 ③省エネルギー手法についての理解 ④省エネルギーの効果についての検証		成績評価の方法： 試験（中間のまとめ）の得点を 60%、課題を 40% とし、その総得点率によって最終評価とする。 達成度評価の基準： 各種専門書及び教科書の内容と同等レベルの問題を試験などで出題し、総合して 6 割以上の正答レベルに達していること。カッコ内は重み付けである。 ①室内環境と人体の健康に関わる諸問題に関する説明などの問題を 6 割以上回答できる。(約 30%) ②住宅の基本性能に関わる断熱・気密・換気・防湿などについて説明ができる。(約 30%) ③省エネルギー手法に関するメリットなどについての問題を 6 割以上回答できる。(約 25%) ④省エネルギー手法について適切な手法を選択肢、効果を検証できる。(約 15%)			
授業の進め方とアドバイス：建築物に関わる省エネルギー手法や健康問題を学ぶ。これらに関する内容は時代の流れとともに大きく変化するため、日頃から新聞やニュースなどで最近の動向に注目しておくことよい。					
教科書および参考書： 適宜プリントを配布する。最新 建築環境工学 改訂第 3 版（田中俊六他、井上書院）を参考書として用いる。					
授業の概要と予定：後期			教室外学修		
第 1 回：室内環境学とは			建築環境工学の位置づけを 3 年次に使用した教科書で確認する。		
第 2 回：化学物質の室内環境			住宅メーカーによる取り組みの内容を確認する。		
第 3 回：微生物と室内環境					
第 4 回：有害動物・ペットと室内環境			住宅メーカーによる取り組みの有無や、取り組みの内容を確認する。		
第 5 回：におい・放射線と室内環境					
第 6 回：気密性能について			住宅メーカーがどのような手法を採用しているかをインターネット等で調べまとめる。		
第 7 回：防湿について					
第 8 回：建物の省エネルギー手法（1）					
第 9 回：建物の省エネルギー手法（2）			該当する手法がどのように使われているかをインターネットや作品集で確認する。		
第 10 回：建物の省エネルギー手法（3）					
第 11 回：中間のまとめ			—		
第 12 回：省エネルギー計算課題（1）					
第 13 回：省エネルギー計算課題（2）			授業時間内で演習の時間は設けているが十分ではないため、教室外においても課題の作成を進めておくこと。		
第 14 回：シックハウス防止のための申請書作成					
第 15 回：ウィンドウトリートメントに関する課題					
—			—		
第 16 回：フォローアップ（課題の返却・解説等）			—		